

課題探究型地域創生人材ルーブリック〈県大生に期待する行動例と水準〉

領域	観点	到達度					
		レベル5 活用 (発展的な行動, 地域での実践)	レベル4 応用 (発展的理解と自律的な実践)	レベル3 基礎 (積極的な理解の姿勢と行動)	レベル2 導入 (必要性の理解, 初歩的な実践)	レベル1 入門 (関心・意欲)	
地域指向性	① 地域・社会への関心と理解	地域課題に対する既存の諸対策を批判的に検討し, より良い地域のあり方や, その実現方法を論理的に構想できる。	国や世界の情勢も踏まえて地域社会の現状を捉え, 地域創生が求められる背景を理解し, 説明できる。	複数の地域間の比較から, 関心を有する地域の特徴を捉えて, 現状や課題を説明できる。	関心を有する地域の構成要素(文化, 産業, 環境, 福祉等)を意欲的に知り, その地域の特徴を多面的に捉えている。	ある地域に関心があり, その地域の現状や課題について学ぶ意欲がある。	
学修・研究基礎 (学力の3要素)	知識・技能	② 教養的知識への関心と活用	多様な情報を自身の専門知識と統合して, 地域や社会の課題分析や, 新たなアイデア・価値観の創造に活用できる。	教養や関連分野の知識を, 専門領域の知識・技能と有機的に関連付け, 自身の学修・研究を深めることができる。	教養や関連分野の知識を, 自身の興味・関心に応じて積極的に学修している。	専攻分野以外にも目を向け, 広く教養や関連分野の知識を学び, 専門知識と関連付ける意義を理解している。	大学生として求められる教養や, 学びの基盤となる語学力等を進んで身に付ける意欲がある。
		③ 専門的な知識・技能の修得と活用	専門的知識・技能を, 地域課題の解決に活用するための具体的な方法を考え, 実社会において実践できる。	専門分野の知識や科学的な調査・研究方法等を体系的に理解し, 学修・研究上の課題に対してそれらを活用し実践できる。	専門分野の知識や科学的な調査・実験手法等の基礎を理解した上で, 他者の支援や助言を得ながらそれらを実践できる。	専門的知識・技能を修得するために, 基本的な内容を重ねて学修・実践することの必要性を理解している。	専門的な知識や技能を学ぶ意欲があり, 基礎学力を有している。
	思考力・判断力 表現力	④ 情報の適切な収集・解釈と他者への発信	実際に地域の現場から情報を収集し, 整理し, 批判的検討を加えて導き出した結論を自分の意見として発信できる。	収集した情報を整理・統合し, 多面的に解釈し考えを組み立て, 自分の意見として発信できる。	収集した情報の真偽を, 学術的な根拠に基づき判断できる科学的なりテラシーを有し, 実践できる。	学修に必要な情報を, 信頼できる文献やWEBサイト等から適切に収集する方法を理解し, 実践できる。	広い視点で物事をとらえ, 自分の意見や考えを口頭や文章で伝える努力をしている。
		⑤ 課題に対する解決策の創造と提案	自ら創造した地域課題の解決に資するアイデアや技術を, 地域社会に対して提案できる。	地域や社会の諸課題に対し, 自らの専門性と地域の実情に合致した合理的な解決策を創造できる。	学修した知識を基に, 地域や社会の現状に客観的な考察を加えて, その地域や社会が抱える課題を認識できる。	ある課題や現象の原因を探るために, 物事の本質を見極め, 理解する努力をしている。	社会の諸課題を科学的に思考・探究し, 解決に貢献する意欲がある。
	主体性 協働性	⑥ 主体的な学修姿勢	継続的に学ぶ意義や方法を理解し, 地域や専門分野に関わる先端的な知識・技能にもとづく探究を実践できる。	学修した内容を, 成績等の客観的な評価に基づいて振り返り, さらなる知識・技能の深化や学修の改善へと繋げる自律的な学びを実践できる。	予習・復習等の授業外学修を通じて, 学修した内容を掘り下げてさらに理解を深める, 主体的な学びを実践できる。	大学での学修が, 受け身ではなく, 自ら目的意識を持って学ぶことで深められることを経験的に理解している。	自ら進んで学び, 学んだ知識や技能を活かして社会に貢献する意欲がある。
		⑦ 多様性尊重と他者との協働	地域課題の解決に向けて, 立場の様々な地域の関係主体と円滑にコミュニケーションをとり, 協働できる。	学修・研究上の課題解決に向けて, 多様な意見を尊重して周囲と円滑にコミュニケーションをとり, 協働できる。	周囲と意見や価値観の相違があっても理解に努め, 自分なりの方法でコミュニケーションを取ることができる。	他者と積極的にコミュニケーションをとる努力をしている。	異なる言語や文化, 価値観を持つ他者を理解し, 協力して物事を進める必要性を理解している。
	社会人基礎	親和力・統率力	⑧ 仲間・チームの牽引(対人基礎力関係)	地域での学修・研究活動で, 率先して関係主体と対話を重ねて意思疎通を図り, 目標を達成することができる。	チームでの学修や研究において, その場の状況に応じて率先して周囲の対話を促し, 意見を集約することができる。	チームの目標達成に向けて自分の意見や考えをしっかりと述べ, チーム活動を活性化し前進させることができる。	チームの活動を進めるために, メンバー同士が対話により意思疎通を図る必要があることを理解している。
忍耐力・柔軟性		⑨ 困難な状況への対処(対自己基礎力関係)	困難な状況に直面しても冷静に受け止めて解決方法を思考・実践でき, たとえ失敗しても諦めることなく再び行動に移すことができる。	すぐに解決することが困難な状況にも前向きに取り組み, 一人で対処が難しいときは積極的に周囲と協力して解決に当たることができる。	自らの意志や判断に自信を持ち, 自身が主体となって粘り強く解決にあたるることができる。	自らの意志や判断に基づき, 責任を持って行動することができる。	難しい課題に直面した時の対処法を身に付ける意欲がある。
行動力・挑戦心		⑩ 目標の設定と実践・改善(対課題基礎力関係)	結果を検証して, プロセスの改善や, 更なる目標の設定につなげることができる。	状況や進捗に応じて, 目標達成に必要な手段や行動を柔軟に見直しつつ, プロセスを遂行することができる。	意欲的な目標を立て, 目標達成までのプロセスを筋道立てて整理・把握し, 着実に実施することができる。	学修・研究上の目標達成に向けて, 自ら行動を起こすことができる。	目標に対して積極的に行動・挑戦する姿勢を身に付ける意欲がある。